

平成31年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 主体的に学習・生活し、学力・体力の向上を目指す学校 (2) 自他の人権を尊重する精神を育てる学校 (3) 地域に根ざし、地域と共につくる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】西川 義則	6月 6日(木)
学校運営協議会(学校評価分) 第1回	11月 7日(木)
第2回	2月27日(木)
第3回	

様式4

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	学校関係者評価			
				7月		12月				最終評価		意見	評価点 (4点満点)
				達成値	目標値	達成値	目標値			達成度	評価		
確かな学力の向上	【中期】全生徒に対しての基礎学力の定着を図る。	地球未来塾事業や東京都立武蔵村山高等学校生徒の学習サポートを活用し、定期考査前、昼休みや放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。	・補習授業・補充教室の回数(時間) ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		100	A	定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた(年間5回)。また、学校運営協議会と連携し、全学年で夏季休業中に計画的に補習教室を行うことができた。さらに、「地域未来塾」を計画的に活用し、3年生の数学と英語の学習に成果を出した。	今後も、夏季休業中や定期考査前の補習教室や地域未来塾の活用の充実を継続して行う。	各補習教室や地域未来塾を活用して、学力を伸ばしてほしい。取組としてかなり努力していると思う。	4		
	【中期】家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		74	B	今年度も家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版(保護者の役割掲載)を作成した。しかし、家庭学習の習慣化は十分とは言えない。	次年度も入学当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導を確実に行う。各教科で家庭学習に継続して取り組めるような工夫をする。家庭学習の協力を保護者会や面談等で継続して家庭に求めていく。	家庭学習の習慣化が一番の要だと私も思う。	3		
	【中期】読書活動の活性化を図る。	学校司書と連携し、図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		75	B	昼休みに図書館開放や生徒による読み聞かせを定期的に行った。また、調べ学習等に図書室の活用が、複数教科の授業でなされた。	朝読書の意義を生徒・教職員に理解させ、読書に専念できるよう組織的に取り組む。	読書嫌いの子供が増えているとのことであり、読解力の強化は喫緊の課題である。これからは読書量の増大を願う。	3		
	【中期】基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定に自主的に取り組ませ、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		86	A	英検・数検・漢検の資格をもっている生徒の割合は、1年生1.7割、2年生2.4割、3年生4.8割であった。	次年度も年度当初に各検定の日程を生徒へ周知し、受検を奨励する。いずれかの取得率5割をめざす。また、学校運営協議会からの協力を継続してお願いする。	資格をもっている生徒の割合を増やすことを期待する。3年生だけではなく、1、2年生からもっと取得する努力をした方が良いと思う。	4		
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、生徒主体によるいじめ防止の取組を行う。SNSに関するトラブルの未然防止のため、保護者の危機意識を高める組織的な取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		100	A	スクールカウンセラーが意欲的に授業観察や相談活動に取り組んだ。また、いじめに関するアンケートを年3回行った。	SNSに関するトラブルの未然防止が喫緊の課題である。6月12日のセーフティ教室において情報モラル教育を行う。	SNSに関するトラブルなど、危険なことをしっかりと教えてほしい。子供が携帯電話を持つようになりSNS等によるいじめも多くなりつつある。今後も、いじめだけでなく、危険性についての教育もお願いしたい。SNSが普及する中、とても良い取組だと感じる。	3		
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		100	A	教育相談部会を毎週1回開催し、生徒支援の具体策の検討・実施を行うことができた。また、年度当初からスクールソーシャルワーカーも参加し迅速な関係機関との連携を行うことができた。さらに、教室環境のユニバーサルデザイン化を全教室で行った。現在も、環境整備後の状態を維持している。	次年度も、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの教育相談部会参加により、関連機関との迅速な連携を行う。また、教育相談部会は、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な取組を継続していく。さらに、特別支援教室の拠点校となるので、個に応じた指導を充実させていく。	今後も積極的に関係諸機関と連携し、教育相談活動の充実を図ってほしい。心理学的なアプローチは、これからの教育では非常に大きなウエイトを占めるものになるので、率先して取り組むべきだと思う。	4		
	【短期】地域活動・ボランティア活動を充実させる。	担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、地域行事やボランティア活動への生徒の参加率を高めていく。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		100	A	昨年度参加者の少なかった1学期の市地域清掃には、生徒会や部活動の協力を得て、参加者が倍増した。しかし、ボランティア募集の人数が減り、目標の600人以上には届かなかった。	来年度も担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、生徒の自主的参加を促していく。	ボランティア活動に積極的に取り組んで、良い学習になっている。ボランティア活動において、多方面で活動を広げることができないだろうか。	4		
健やかな体の育成	【中期】オリンピック・パラリンピック教育の推進	オリンピック・パラリンピックについて学び、スポーツに関心をもたせ、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解を推進する。	・オリパラに関する授業の実施回数 ・教師自己評価 ・生徒アンケート	80		100	A	東京都のオリ・パラ事業を活用し、外部から講師を招いた講座を2回行った。また、保健体育や社会科、道徳等の授業を中心にオリ・パラに関する授業を展開した。さらに、五中フェスティバルやボランティア活動を通じて、国際交流やおもてなしの心も育成できた。	長期休業中のボランティア等に積極的に参加する生徒の育成を継続していく。また、オリ・パラ年間指導致引計画にしたがって、オリ・パラ担当主任を中心に、各教科や道徳等で取り組んでいく。	一生に一度だと思ふ東京オリンピックを胸に刻んでほしい。	4		
	【短期】基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	残食ゼロウィークに積極的に参加し、給食の残菜率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を行う。	・給食残菜率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		82	A	年間を通し、給食委員会が給食時の放送で食材の紹介をする取組を行った。また、年2回の残食ゼロ週間に給食委員会が組織的に取り組んだ。	家庭科を中心に食育に取り組み、年2回の残食ゼロ週間に、給食委員会が給食残菜率を減らす呼びかけと活動を継続して行う。給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を次年度も行う。	給食を食べる時間が少ない。	4		
開かれた学校	【中期】コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80		100	A	学校運営協議会が中心となって、新たな職場体験先を広げることができた。また、3年生の進路模擬面接は、生徒に緊張感をもたせることができた大変良かった。	学校運営協議会に3年生の進路模擬面接や職場体験先の紹介の協力を、引き続きお願いする。また、防犯パトロールや芝刈りの参加者を毎回増やす。	市内でも最も活動している学校運営協議会だと思う。先生方と地域の方々が連携して良い活動がなされている。面接は回数を重ねるほどうまく受け答えができるようになるので、今後も続けてほしい。コミュニティの主体性・自立性が高く、地域に根付いた学校作りができている。モデルケースになりうる。	4		
	【中期】保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	五中フェスティバル等の事業を充実させ、地域人材の活用を図る。国際理解教育を推進し、地域や横田基地との交流を進める。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		100	A	学校運営協議会の御協力により、今回も五中フェスティバルは充実した内容であった。	今後も学校運営協議会やPTAと連携して行う。また、国際理解教育の推進も視野に入れ、地域や横田基地との連携を進めていく。	五中フェスティバルでの地域の協力は得難い経験となっている。	4		

平均値 3.7

【達成度】 = [達成値] / [目標値]

【評価】 A : 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B : 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C : 5割未満→目標の見直し